

令和7年度 奈良県コミュニティ・スクール連絡会【県立学校】実施報告

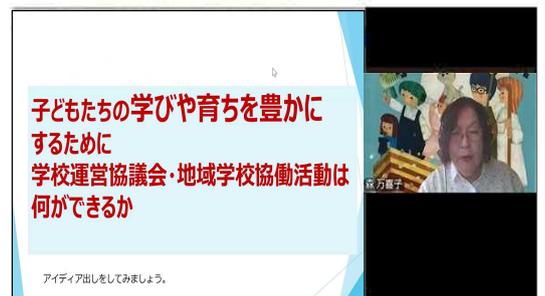
- 《日 時》 令和7年8月22日（金） 14:00～16:30
- 《開催方法》 オンライン開催
- 《参 加》 県立学校の管理職 計 35名
- 《内 容》 14:00～14:05 開会
14:05～15:05 「学校運営協議会と地域学校協働活動『みんなで』地域の子どもを育もう」
文部科学省CSマイスター 森 万喜子 氏
15:15～15:50 情報交換
「学校運営協議会を活性化させるために必要なこと」
15:50～16:10 全体共有
16:10～16:20 指導助言
文部科学省CSマイスター 森 万喜子 氏
16:20～16:30 閉会

◆講演概要

「学校運営協議会と地域学校協働活動『みんなで』地域の子どもを育もう」と題し、自身が感じられた課題や経験に基づいて、熟議がきっかけで生まれた取組等も紹介していただきながら、「学校運営協議会の活性化」について御講演いただいた。

◆講演内容

- コミュニティ・スクールは、「子どもたちの学びが深まった」「先生方が働きやすくなった」「地域の未来も考えられるようになった」等の思いを、学校・家庭・地域がもてるよう運営していくことが重要である。
- 現代社会においては、社会全体で子どもたちを育てていくことが必要である。県立学校の特色に沿った地域の教育資源を活用することで、学びの質が向上し、子どもたちの多様な学びにつなげることができる。
- 子どもたちの学びや育ちや経験を豊かにするために、学校運営協議会における熟議で目標を共有し、その目標に沿った地域学校協働活動を学校も地域も家庭も含めて「みんなで」行っていくことが重要である。
- 学校運営協議会を活性化させるためには、学校の課題や困りごとをさらけ出し、学校運営協議会において「何を目指して熟議を行っているのかを明確にすること」「学校運営協議会委員それぞれが自身の役割を認識すること」を通した学校運営協議会委員の当事者意識をもった参画が必要不可欠である。
- 熟議を行うに当たって、議題を明確にすることで意見やアイデアを出しやすくすることができる。また、熟議を行うルールを提示することで、建設的に議論を進めることや議題に焦点化した熟議を進めることが可能になる。その中でも特に大切にしてほしいことは、自分の考えや気持ちを誰に対しても安心して発言できる状況である「『心理的安全性』を担保すること」と、様々な角度から多様な意見や考えが出るように「学校運営協議会委員の多様な人選をすること」である。
- 学校運営協議会における熟議での成果物（熟議の際に作成した学校運営協議会委員の意見が集約された模造紙など）を校内に掲示することで、教職員や生徒にも「熟議の内容」や「共有した目標」等を知らせることができ、コミュニティ・スクールについての理解も深めることができる。
- 働き方改革は「教育の質の向上」を目的に行うべきである。勤務時間内に余白時間を作って地域に根ざした学びを取り入れ、子どもたちにとって学校だけではできない深い学びを地域と協働して実施していくことが重要である。



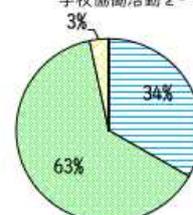
◆情報交換・意見交流

グループに分かれ「学校運営協議会を活性化させるために必要なこと」について、森CSマイスターの講演内容を基にしたり、事前実施したCSチェックシートの結果等を活用したりしながら、「熟議」「運営方法」「委員選出」「委員の当事者意識」「広報」等の視点で情報交換を行った。

◆参加者の感想

- 学校運営協議会委員の選定や、学校運営協議会のあり方について、自校の現状と課題を確認できる時間となりました。特に熟議という視点が大きい参考になりました。
- とても活発に学校運営協議会を活用し、学校や地域の活性化を図られていて、参考にしたいと思いました。
- 学校を良くしていく話し合いに留まらず、幅広い可能性があることに気付かされました。

講演等を聞いて、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動を一層推進しようと思いましたが、



- 大いにそう思う
- おおむねそう思う
- あまり思わない
- 思わない